

講義録レポート

講 座	証券アナリスト	科目①	市場と経済	
目標年	2014年合格目標	科目②		
コース	2次 科目別学習解説セミナー	回 数	1	回
収録日	2014 年 1 月 7 日			
講師名	小川 先生	講義録枚数	2	枚 ※レポート含まず
		補助資料枚数	2	枚 ※表紙含む
講義構成	講義 (26) 分			
使用教材	①			
	②			
	③			
	④			
配布物	有 . 無			
	①			
	②			
	③			
正誤表	有 . 無 枚			
備考				

証券アナリスト講義録	科目	市場と経済	コース	2次科目別 学習解説s	回数	3
------------	----	-------	-----	----------------	----	---

配布物	★ミニテスト：あり	[]	なし	★答	練：問題用紙・解答用紙・解答解説	講師	小川 先生
	★実力テスト：あり	[]	なし	★その他のレジュメ	[]		
	◇配布物なし						

テキスト ページ	黒板内容
	2次 市場と経済の分析 ○ 1次 ⇒ 2次

証券アナリスト 講義録	科目 市場と経済	コース 2次科目別 学習解説S	回数 3
-------------	-------------	-----------------------	---------

配布物 ★ミニテスト：あり [] なし ★実力テスト：あり [] なし ◇配布物なし	★答 練：問題用紙・解答用紙・解答解説 ★その他のレジュメ []	講師 小川 先生
---	--------------------------------------	-------------

テキスト ページ	黒板内容
	IS バランス (頻出) $Y = C + I + G + EX - IM$ GDP ⑩ $Y = C + S + T$ 所得 恒等式 ↑ $\underbrace{(S - I)}_{\text{民間}} + \underbrace{(T - G)}_{\text{財政収支}} = \underbrace{EX - IM}_{\text{純輸出 (経常収支)}}$ 国内 +15 (マクロ 金融論) +15

2次「市場と経済の分析」セミナー資料

2014 / 1 / 7

TAC証券アナリスト講座

経済担当 小川

1. 「市場と経済の分析」の概要

- 本試験では大問で3題程度が出題される。配点は全体の10%強。
- 出題範囲は、2次通信テキストの内容に限定されない。
- 1次で学習した経済学の基礎理論や、現在の日本および国際経済の諸問題といった時事的な話題からの出題もある。
- 解答は、すべて記述式である。
- 基本的に、マクロ・金融経済（国際分野を含む）からの出題が大半であるが、ミクロ経済学のゲーム理論（同時決定ゲーム、逐次ゲーム、クールノー均衡、オークション）から大問1問が出題されることもある。

2. 試験対策

- 過去問の確認は最低限の準備である。
- 過去問を出発点として、その周辺の基礎理論、時事的な話題などを確認する。
- 記述試験への対策として、基本的な用語や経済モデルを説明できるようにしておく。

3. 過去問へのヒント

貯蓄投資バランスについて

海外があり（開放経済）、政府が存在する場合、貯蓄投資バランスの式は以下のように導かれる。

$$Y = C + I + G + EX - IM \quad (\text{総需要の式})$$

$$Y = C + S + T \quad (\text{所得の式})$$

2式はいずれも合計はYであるから、右辺同士も等しい。この関係により、以下の式が導かれる。

$$(S - I) + (T - G) = (EX - IM) \quad (\text{開放経済の貯蓄投資バランス})$$

この式は、恒等式であり、一国経済を事後的に（ある期末で）みた場合、常に成り立つ関係である。

例えば、最近の日本では、ある年度の財政収支（ $T - G$ ）はマイナス（財政赤字）であるが、民間の貯蓄超過幅（ $S - I$ ）はそれを上回って大きく、左辺の国内部門全体では貯蓄超過（プラス）になっている。

開放経済では、国内の貯蓄超過幅は右辺の純輸出（ $EX - IM$ 、概ね経常収支に相当）と等しい。日本では、対外取引は黒字になっており、同時期に日本が保有する対外純債権が貯蓄超過額だけ増加したことがわかる。

この結果を海外から見ると、日本に対しては金融面で赤字であり、日本からの債務が同額だけ純増したことになる。

過去問での出題例（平成22年・第1時限・第1問）

貯蓄投資バランスと国際収支統計における経常収支との関係を説明しなさい。